



「振り向けば、未来」

2010年1月～11月開催

開催目的

1. BSE 発生当時の各自の立場の振り返り
2. 全頭検査の意味の再検討をする場の可能性を探る
3. より大きな場への橋渡し

第1回 苦悩の多様性の再確認



第2回 研究者の苦悩

第3回 酪農現場の困惑

第5回 翻弄されたと畜場

第4回 食卓の戸惑い

第6回 食肉産業の努力

第7回 マスコミの伝え方



多様なステークホルダーによる BSE / 全頭検査問題をめぐる戸惑いと苦しみをともなった経験の語り合いによって、相互の理解が促進されました。一方で、お互いの置かれている状況が分かるからこそ、全頭検査継続に賛成することも反対することも困難な道が待ち構えていることも見えてきました。こうした深い理解を広げていくことが今後の課題です。

BSE 問題を事例として、対話の3段階モデルの適応可能性を探りました。第1段階として帯広市で研究者・農業者・消費者などが集まった「振り向けば、未来」を開催しました。ステークホルダーによる会議を兼ねる形となり、第2段階としての広く一般に公開した熟議の場、「BSE 熟議場 in 北大」の開催につながりました。

「BSE 熟議場 in 北大」

2010年12月11日開催

開催目的：2013年のBSE 清浄国資格を前に全頭検査の効果と限界について道民を巻き込んだ議論の場を設ける。

第1部：BSE って何だったの？

吉川泰弘（元プリオン専門調査会座長）に聞く

第2部：まるくなって語り合おう

マスコミ・行政との鼎談とグループディスカッション